

カルシウム剤施用と夏期遮光による「松の舞」の障害果発生抑制技術

[研究のねらい]

夏期の大型トウガラシ栽培では、果実に Ca 欠乏による尻腐れ果や日焼け果等、生理障害果が多発し、品質低下や減収が問題となっています。このため、高温期の遮光ネット被覆による上物率の向上とカルシウム剤の葉面散布および灌注による尻腐れ果発生抑制をねらいとしました。

[研究の成果]

- ①株当たりの総収量は無遮光区が最も多く、遮光率が高くなるにつれ減少しますが、上物収量は6月の収穫開始期からの遮光により増加し、遮光率50%区で最も多くなります。また、上物率は50%以上の遮光区で高くなります(図1)。
- ②遮光区では無遮光区と比較して果長は長く、果色は緑色が濃くなります(図2)。
- ③カルハード(大塚化学株式会社)500倍液の葉面散布(14日間隔、1リットル/株)処理または炭カル500倍液の灌注処理(1リットル/株、15日間隔)を行うと無処理と比較して可販果収量、上物収量とも増加し特に葉面散布が効果的です(図3)。
- ④尻腐れ果の発生は収穫開始期の6月から始まり、各区とも8月に多発する傾向が認められますが、発生率は、Caの葉面散布または灌注を行うと無処理と比較して低くなります(図4)。

[成果の活用面・留意点]

- ①本成果は「松の舞」の露地トンネル栽培に適用でき、適応地域は中山間地域を含め県下全域です。

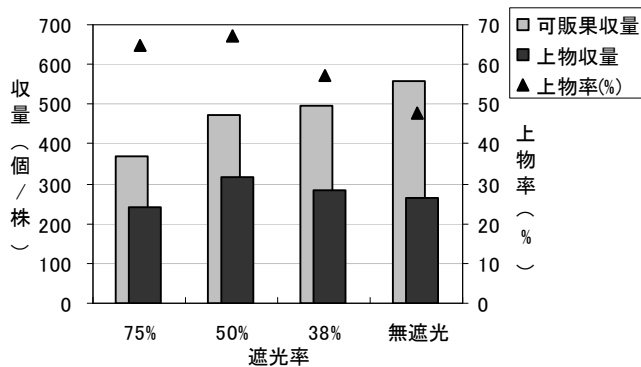


図1 遮光率と株当たり収量および上物率
注)定植2001年4月10日、露地トンネル栽培、収穫期間6月~10月、遮光は収穫期間中



図2 遮光率による果実の変化

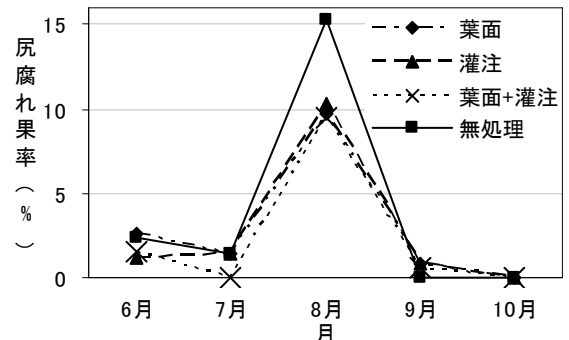
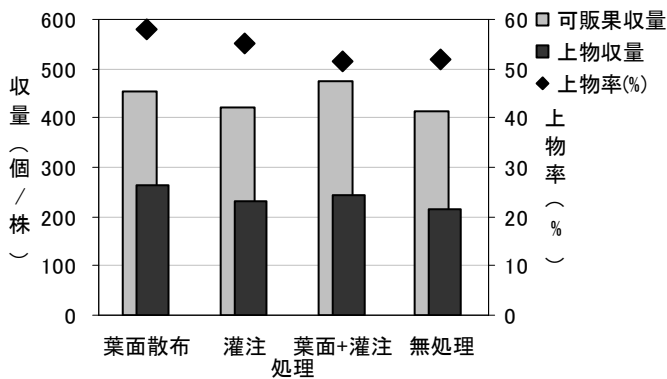


図4 Ca処理と尻腐れ果発生率の推移

実施年度：平成11~15年

担当者：神藤 宏